

# 姫路支部だより

H I M E J I S H I B U D A Y O R I

# 5

2017 May No. 24

1 4月の活動報告・5月の活動予定  
女性会員の皆様へお知らせ  
事業報告 第1回構造学習会 石原弘一  
創立60周年記念誌 原稿募集について

2 姫路建築探訪  
F.45-V.22 明治天皇姫路行在所  
福岡憲昭・山本薫





『文化財なるには物語が必要。』  
これはこの建物を残そうと色々な人が願い、働きかけ、実際に動き、さらに物語(歴史)の要素が上手く噛み合ってきた上に・・・  
『存在を許された建築物』になっただけではないか・・・



『存在を許された建築物』  
この建物は幾度となく消える運命であったのに、現に存在している。

表紙写真・文  
明治天皇姫路行在所  
(姫路建築探訪より)

## ■4月の活動報告

- 4.19 (水) 第1回環境デザイン研修会 (姫路建設会館)
- 4.24 (月) 支部理事会 (姫路建設会館)
- 4.27 (木)  CPD認定事業  
第1回構造学習会 (姫路建設会館)
-  CPD認定事業  
建築相談 (姫路市役所)

## ■5月の活動予定

- 5.13 (土) 支部総会・創立60周年記念式典 (姫路商工会議所)
- 5.17 (水) 第2回環境デザイン研修会 (姫路建設会館)
- 5.25 (木)  CPD認定事業  
第2回構造学習会 (姫路建設会館)
-  CPD認定事業  
建築相談 (姫路市役所)
- 5.27 (土) 本部総会 (兵庫県学校厚生会館)

## ◆◆女性会員の皆様◆◆

新年懇親会から、早半年が過ぎました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。女性会員さんの入会もあり、歓迎会も兼ねて、女性会員のみ！懇親会を企画致しました

- ◆日時 : 6月10日(土) 12:00~16:00 予定
- ◆場所 : 姫路駅中央南口集合  
御津方面にてランチ懇親会&プチ見学会
- ◆参加費 : 2000~3000円程度

◇詳細な内容は、後日改めて、連絡させていただきます。  
◇皆さま、お忙しいかと思いますが、ご予約に入れて頂ければ嬉しいです。  
◇新年度、全員が新たな一年を踏み出す時期です。  
◇色々なお話をし、見学し、懇親が出来ればと思っております。  
(森澤)

## ■第1回構造学習会 報告



第1回の構造学習会を実施し、全員で26名(全員出席)でした。木造の基礎知識(その1)で熊本地震での被害状況に解説も交えながら、木造の材料や工法の特徴を景山先生に解説していただき、受講生は熱心に耳を傾けておられました。アンケートをとりました結果、意匠設計の方ばかりなので、理解度を測りながら進めて行きたいと思っております。

(石原)

## ■創立60周年記念誌 原稿募集について

このたび、支部創立60周年を記念して記念誌を作成いたします。つきましては、会員の皆様に原稿を募集致します。

60周年という節目に今の時代に生きる私達建築士が、今この時、考えていること、想い等建築にまつわることでしたら内容は問いません。

形式: 文章 エクセル ワード形式  
文字数は最大1400字以内で何文字でも結構です。

写真: 趣旨がわかるような写真数枚

ご本人の写真(掲載を希望されない場合はなくても結構です)。写真は文章とは別ファイルをお願いします。

期限: 平成29年12月25日

宛先: 姫路支部事務局

メールアドレス himeji@hyokenkyo.or.jp

名称：明治天皇姫路行在所（めいじてんのうひめじあんざいしょ）  
所在地：姫路市地内町1番地 姫路船場別院 本徳寺 境内

現地案内：中山 栄一郎 氏

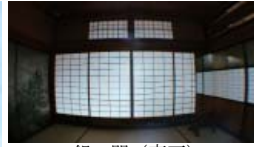
【概要】

明治天皇が明治18年（1885年）8月8日に船場本徳寺に逗留した際に使用した建物。  
建物はもともと安政年間に書院として建築され、昭和7年（1932年）火事で一部焼損し修復しています。

平成23年（2011年）6月4日姫路船場別院本徳寺（船場御坊）の明治天皇行在所の曳き家工事が行われ現在の位置に移設されました。



行在所（南西面外観）



銀の間（南面）



金の間（南面）



広縁（西側）



銀の間（東面）



金の間（東面）



広縁（南側）



行在所（北東面外観）



礎石



銀の間（北面）



金の間（北面）



襖絵①



屏風①



屏風②



銀の間（西面）



金の間（西面）



襖絵②

【感想】

『存在を許された建築物』 今回の建築物をこう表現したい。

今回の建物を訪れるのは二度目である。最初は歴史と出会うまちづくり船場城西の会の町歩きに参加させていただいた。その時に福岡さんと「チャンスがあれば紹介しましょう。」と言っていた建物である。待ち合わせ時間に少し余裕があるので、境内の主役「姫路船場別院 本徳寺（船場御坊）」に少し立ち寄り、相変わらずの迫力に圧倒され今回の見学建物に向かう。今回は幸運なことに建築士会姫路支部の前支部長の中山さんに案内をお願いした。渡り廊下を三人で歩きその先に見えてくるのが今回の見学建物『姫路行在所』である。

渡り廊下越しに北側の国道2号線側を見ると現在は金融機関が建っている。その場所にこの建物は有ったとのこと。

まず、この建物は明治18年8月8日に明治天皇の山陽道御巡幸の際に宿舎となった後に不運なことに昭和7年11月2日に火災にあってしまう。中山さんの説明では小屋裏内にその当時の跡を見ることができようである。炭化した躯体部材も材の中まで炭となっておらず当時の部材のまま残っているとのこと。（当時は燃え代の手も考え部材寸法を決めてののだろうか？そこまで見越したのならば先人恐るべしである。）

その後修復されたこの建物は戦災に遭ってもおかしくない場所に在ったにも関わらず、幸運にもその姿を残すことになったが、その後この建物が在った土地が売られ存続が危ぶまれたが、たくさんの方の意向により残すことになった。しかし、今度は法律的な観点から普通の移築が困難になり曳家（ひきや）という手段により現在の地へと納まったという話を聞かせていただいた。

肝心の建物だが、書院造りの平屋で中でも 金の間 銀の間 と称される和室の障子や襖に書かれた絵が素晴らしい。（残念ながら書き手や年代はわからないとのこと）引手や釘隠しは 銀の間 にはお寺の紋のボタンの花が、金の間 は天皇家の菊の花がそれぞれあしらわれ、障子絵や襖絵とも馴染んで少し仰々しくなりそうなのだが流石にそれは無く落ち着いた感じの居心地の良い空間となっている。

金の間 の中央には玉座が置かれ、この位置から庭園を望むことができたそう。（残念ながら現在は庭園は存在していない）また、この2室の四隅には昔懐かしい蚊帳を吊るための金具も取り付けられている。

この後は これも見事な飛ぶ雁（？）の絵が描かれた、引き違い襖に見える片引き襖を通り、菊の間 などを見学し、見事な屏風絵なども見せていただいたのだが、こちらも年代や書き手はわからないようだ。

この建物内部の聚楽がところどころ落ちたままになっているがそれも文化財に指定してもらうためには現状維持のままにしておかないといけないようだ。そんな理由で外壁の黒漆喰も塗ってある部分や剥がれている部分もそのままである。

外部は外壁は黒漆喰で屋根の鬼瓦には菊の花、懸魚にはボタンの花とここでもきちんと明治天皇とお寺を表す花がデザインに使われている。この建物は南からの姿が最大の見せ場である。庭園を眺める為に無粋な柱は不要とばかり、細い軒桁が6間程柱の支えなく納まっている。これで上からの荷重や吹上の力に対応しているというのだから驚きだ。庭園の復活も楽しみにしたい。

この建物は幾度となく消える運命であったのに現に存在している。

中山前支部長から『文化財なるには物語（歴史）が必要。』という目から鱗の言葉を聞いた時に、これはこの建物を残そうと色々な人が願い、働きかけ、実際に動き、さらに物語（歴史）の要素が上手く噛み合わさった上に、お寺の境内の建物でもあるので仏の慈悲も加わり、冒頭に書いた『存在を許された建築物』になったのではないかと感じつつ見学を終えた。

あとがき

多分、中山前支部長を始めとするこの建物に携わった人には、私の文章では物足りない文章だと思います。この地区の方たちはいつも何かイベントを行っておられます。町歩きしかり楽市しかり、非常に情熱を感じます。こうして次世代にきちんと価値あるものを残して行こうという情熱が古建築の存続にも繋がっていくような見本となるよい見学でした。